文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B):
福祉課題への変革プログラムに取組む実践家と組織の評価キャパシティ形成法の開発研究

地域共生社会における多様な就労困難者の効果的な就労支援プログラム形成プロジェクト計画書

1. 研究の背景

「仕事や職場環境を確かめ・試しながら適職を探れたら…」「不安定・低収入だが働きながら次の就労を準備したい」「健康や家族の問題を解決しながら就労できれば…」など、暮らしの相談窓口でもさまざまな就労ニーズに直面します。

一方、仕事や働き方は大きく変化し、選択肢が拡大していますが、自助努力だけで適職やふさわしい環境等を探り順調なキャリアを歩むことはますます難しくなっています。

政策的には、従来の【障害】【高齢】【子育て】【若者】など制度別の取組みを経て、【生活困窮】の制度等が契機となって対象者を限定しない就労支援が全国の自治体・地域で展開され、強化が図られていますが、相談者の多様なニーズに対応するには課題がある地域も多いようです。

2. 目的

1) 本研究のなかで実施するコンサルテーションやワークショップを通して、より良い現場実践の方略を探っていきます。こうした取組みを通して、実践現場の成果向上に貢献したいと思っています。
2) 全国の多様な就労困難者を対象に支援を行う実践現場の協力を得て、当研究チームが開発した「効果的な就労支援プログラム形成のためのガイド(以下、効果的就労支援ガイド)」の効果検証を行います。

3. 方法

1) 効果的就労支援ガイドの効果検証

私たちはこれまで、主には自立相談支援事業を中心に、効果的な就労支援ガイド(https://www.u-shien.jp/wp-content/uploads/2023/01/guide2019.pdf)を開発して参りました。現在、こちらの改定作業を進めており、2023 年 8 月に改訂版が完成する予定です。本プロジェクトでは、この改訂版を提供させていただき、これを用いてプロジェクトを進めていく予定です。

効果的な就労支援ガイドの構成を表 1 に示します。

表 1 効果的な就労支援ガイドの構成

1. はじめに	・なぜ、効果的な就労支援ガイドが必要なのか、このガイドを使用してどのようなことができるのかなどを説明しています。
2. ステップ 1:目指すべき事業成果とそこに到る道筋を確認する	・効果的な就労支援の設計図であるロジックモデルを示し、このプログラムで何の達成を目指すのか、そのために何に取組むのかを説明しています。
3. ステップ 2:活動の状況と事業成果を評価する	・ロジックモデルの取組み状況を評価するためのフィデリティ尺度、成果を評価するためのアウトカム指標の使い方を説明しています。
4. ステップ 3:評価結果をもとに事業改善する	・ロジックモデルを適切に実施するための詳細な活動内容(効果的援助要素)を示しています。これをもとに事業改善を行うことができます。
5. さいごに	・この効果的な就労支援ガイドをどのように使ってほしいか、これを通して何をどう改善したいか、メッセージをお伝えしています。
6. 資料	・①自己チェックシート(フィデリティ尺度)、②事業所調査票、③相談者調査票(2 種類)、④相談者面接票を格納しています。

2）効果的就労支援ガイド試行評価

開発してきた「効果的就労支援ガイド」を用いた、実践現場の成果向上に貢献するために、コンサルテーション・ワークショップを実施します。

（1）コンサルテーション・ワークショップ

・実施時期：2023 年 9 月～2024 年 3 月までの期間となります。開始時点の 2023 年 9 月と終了時点の 2024 年 3 月にご訪問(あるいは Zoom によるオンラインでのお打ち合わせ)をさせて頂ければと思います。また、中間時点にあたる 2023 年 12 月頃に、参団体(地域)の皆様にお集まり頂き、情報交換会(ワークショップ)を開催したいと考えております。

・実施の方法：コンサルテーションに先立って、取組みの実施状況(自己チェックシート(フィデリティ尺度)や成果に関わるアンケート(事業所調査票・相談者調査票)にご回答頂きます。これらに加えて実践現場(地域)の皆様がお困りのことなどを事前にお聞きし、これらに基づいたコンサルテーションを実施します。また、プロジェクト実施期間の途中で参加団体(地域)が情報交換・交流ができるワークショップを開催する予定です。

（2）有効性検証のための試行評価

・実施時期：上記「（1） コンサルテーション・ワークショップ」 と同様です。

・実施の方法：こちらも基本的には上記「（1） コンサルテーション・ワークショップ」 と同様です。自己チェックシート （フィデリティ尺度） 及び成果に関わるアンケートの両方に関するチェックを **2023 年 9 月から開始して頂きます**。また、自己チェックシート(フィデリティ尺度)のチェックが 1 つでも増えるようにコンサルテーションを踏まえ、可能な範囲で取組みを進めて頂きます。

4. 調査票（使用する評価ツール）

1）成果（アウトカム）評価

（1）事業所（地域）のアウトカム

・事業所調査票:事業所あるいは地域単位の変化をとらえます。例えば、事業所(地域)単位での利用者数や就労者数などをおうかがいします。

（2）利用者のアウトカム

・相談者調査票:利用者(相談者)単位の変化をとらえます。例えば、就労意欲や生活・社会スキルの状況などをおうかがいします。こちらは利用者の全員ではなく、各事業所(地域)から数名を抽出していただくことを想定しています。

2）実施状況（プロセス）評価

・自己チェックシート(フィデリティ尺度):効果的就労支援に基づく実践がどの程度取り入れられているかをおうかがいします。本プロジェクトのなかでは、可能な範囲でこのチェックが増えていくことを期待しています。

5. 評価の対象

（1）事業所（地域）

・本プロジェクトには多様な就労困難者の就労支援に携わる様々な機関の皆様にご参加頂けますと幸いです(図 1 参照)。もちろん、こちらはご参加いただける、ご協力いただける機関様のみで結構でございます。

・なお、**プロジェクトや調査の窓口**(例えば様々な調査票の記入やコンサルテーション等にあたっての研究班とのやり取り等） **は各地域の自立相談支援機関のご担当者様にお願いできれば幸いです**。

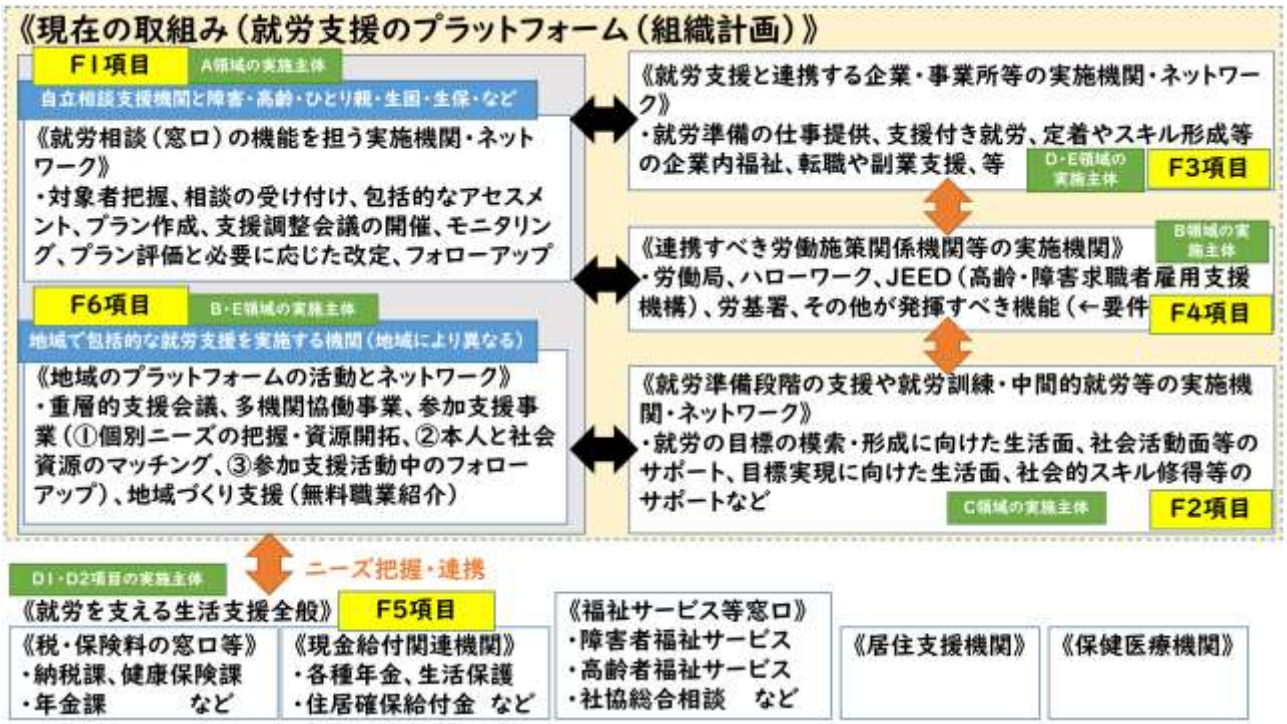

図１　多様な就労困難者を支援する地域の機関

（２）利用者（相談者）

・自立相談支援機関にご登録の利用者様（相談者様）のうち、就労を目標にしている方にお願いしたく存じます。なお、こうした方々の全てではなく、各地域数人を抽出して頂き、ご依頼をさせて頂ければ幸いです。

・なお、当然でございますが、利用者様（相談者様）に研究についてのご説明文書等をお渡しし、本プロジェクトにご協力頂くことの承諾を得られた方々のみを対象にさせていただきます。

６．導入するプログラム（効果的就労支援ガイド）

１）ロジックモデル（効果的就労支援ガイドの設計図）

効果的就労支援の設計図（ロジックモデル）を図２に示します。このプログラムが最終的に目指すのは「相談者が就労定着し、経済的に自立すること」や「より多くの相談者が就労すること」です。

そのために、各地域で「相談者の状況に合った適切な支援が行われる」ことや「多様な働き方のメニューが増える」ことが目指され、相談者様（利用者様）も「就労意欲が向上する」こと、「スキルが向上する」こと、「安心して働き続けられる」ようになることが目指されます。

そのための具体的な活動（実践）内容については、次の「効果的援助要素」の部分でご説明します。なお、ロジックモデル（効果的就労支援ガイドの設計図）は現在最終確認中です。2023 年８月には最終版をお示します。

図２ 効果的就労支援のロジックモデル（設計図）

２）効果的援助要素（効果的就労支援の具体的な取組み内容）

本プロジェクトで用いる効果的就労支援ガイドの効果的援助要素（概要）は表２のとおりです。本プロジェクトでは可能な範囲でこれらを各事業所（地域）の実践に取り入れていただけますと幸いです。本プロジェクトのなかで行うコンサルテーションもこちらに基づいて実施していきます。

表２ 効果的就労支援ガイドに基づく実践（効果的援助要素）の概要

領域	項目（要素）
A領域　相談者の状況にあった適切な支援	A1～A3（3項目、13要素）
B領域　多様な働き方のメニューを増やす支援	B1～B3（3項目、13要素）
C領域　相談者の就労意欲を向上させる支援	C1～C3（3項目、13要素）
D領域　相談者のスキルを向上させる支援	D1～D3（3項目、19要素）
E領域　相談者が安心して働き続けるための支援	E1～E2（2項目、9要素）

こちらの詳細は「効果的な就労支援ガイド（https://www.u-shien.jp/wp-content/uploads/2023/01/guide2019.pdf）」をご参照ください。なお、こちらの効果的援助要素も、現在最終確認中です。2023 年 8 月には最終版をお示します。

7．試行評価調査プロジェクトの流れ

本試行評価調査プロジェクトは、下記の図３のように行います。

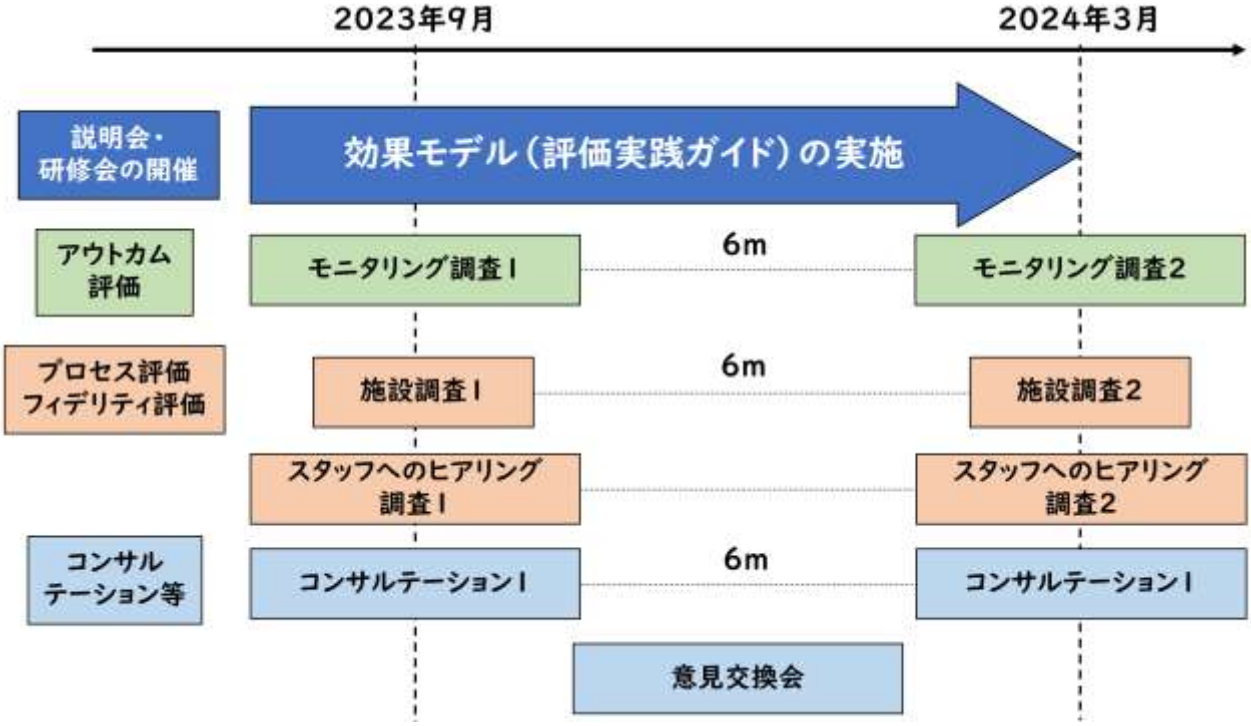

図３ 試行評価調査プロジェクトの流れ図